

2025 年度 学校法人東京滋慶学園 埼玉福祉保育医療製菓調理専門学校
学校関係者評価委員会 議事録

●日時：2025年5月28日(水) 12:30～14:30

●場所：埼玉福祉保育医療製菓調理専門学校（埼玉県さいたま市大宮区仲町 3-88-2）4 階

●学校関係者評価委員

卒業生代表	介護福祉士科 1 期生		溝上 俊亮
卒業生代表	調理師科 2期生		川面 将平
高等学校関係者	自由の森学園高等学校	校長	菅間 正道
介護福祉士科 業界関係者	介護老人保健施設	施設長	小林 美穂
言語聴覚士科 業界関係者	いづみケアセンター		
保育士科 業界関係者	社会福祉法人宮原ハーモニー	理事長	島村 和宏
調理師科 業界関係者	株式会社ジェイオフィス東京	事業部長	鈴木 隆之
調理師科 業界関係者	埼玉県洋菓子協会 有限会社ドゥーブルシェフ	副会長 代表取締役	山本 正隆
地域関係者	大宮区仲町三丁目自治会	副会長	坪井 光男
保護者代表	保育士科(昼間主)2 年生 保護者		内田 有紀

●学校法人東京滋慶学園 埼玉福祉保育医療製菓調理専門学校 教職員

学校長	青木 猛正
副学校長	飯塚 洋一
運営本部長 兼 事務局長	結城 健二
事務局次長 兼 広報センター長	前川 雄大
教務部長	仁村 将大
介護福祉士科 学科長	田村 仁美
保育士科 昼間主 学科長	境野 あゆみ
保育士科 夜間主 学科長	村田 和也
言語聴覚士科 学科長	奥山 裕太
調理師科 学科長	大西 加恵
産学連携推進センター センター長	石岡 真典
学生サービスセンター センター長	兒玉 あゆみ

●議題

- I. 校長挨拶
- II. 学校関係者評価委員会趣旨説明
- III. 委員紹介
- IV. 在校生プレゼンテーション 本校の学び(言語聴覚士科、介護福祉士科、保育士科、調理師科の在校生)
- V. 2024 年度 事業報告
- VI. 2024 年度 自己点検自己評価
- VII. 委員意見
- VIII. 閉会挨拶

I. 校長挨拶

実学教育・人間教育・国際教育を基本理念として人材育成を使命と認識している。

専門人材としての技術や知識、グローバルな視点、入口である高等学校、出口である業界、地域・保護者の方々の意見をいただき、より実践的な教育を行っていきたい。

学校教育法が改正され次年度より施行されることにより、専門学校の入學資格の改正。大学と同等以上の学力が求められている。授業時間数が単位として認定されるなど、大学と同等となっていく。

専修学校が自ら点検評価を行い、有識者による評価を受け、結果を公表することが改めて明記されていることから、本委員会は非常に重要度の高いものとなっている。

本日は、昨年度のご意見をもとに改善報告をさせていただく。忌憚なきご意見をいただきたい。

II. 学校関係者評価委員会趣旨説明(仁村)

2024年度の学校活動に関する自己点検・自己評価の結果を、第三者である外部評価委員に確認・評価してもらうことを目的としている。(スライドにて説明)

III. 委員紹介

各委員より自己紹介。(欠席者：川面将平委員、島村和宏委員)

IV. 在校生によるプレゼンテーション 本校の学びについて

<趣旨>教員からの一方的な説明ではなく、学生の実際の活動や表情を通じて学びの様子を伝える。

<言語聴覚士科>

2年生3名によるプレゼンテーション

内容

オープンキャンパスでの学生プレス活動である、体験授業オープニングのデモンストレーションを実施。

学校と言語聴覚士科の紹介。

学生意見(学び)

臨床実習では主体的に行動し、責任感のある人材になれるよう頑張っている。患者さんの心の支えになる言語聴覚士になりたい。

学生プレスでも「主体性」を学んでいる。自分が入学前に先輩と接したときの優しさが安心感に繋がった経験があるので、自分も信頼される存在を目指したいと思うようになった。

学生が企画運営をする場面が多くあり、この活動を通して伝える力、聞く力を学ぶことができている。

<介護福祉士科>

留学生2名(ベトナム・香港)によるプレゼンテーション

内容

介護の現場は外国籍の従事者が増えている。留学生が日本を、そして本校を選んだ理由も含めた学科の紹介。

学生意見(学び)

◇日本で介護を目指す理由

・元々は医師志望だったが、まず介護福祉士として経験を積みたいと考えた。

その中で、日本の医療・介護の分野は質が高い為、日本で学ぶことを決意した。

・父の死をきっかけに、高齢者介護について深く理解したいと感じ介護を目指すようになった。

母国では効率重視になりがちな業種なので、日本の思いやり文化や人間性も含めて学びたいと思った。

◇埼玉福祉保育医療製菓調理専門学校を選んだ理由

・日本人と同じクラスで学べる事は、コミュニケーションの学びにもなり非常に魅力的である。

また、オレンジカフェ(介護施設利用者とコミュニケーションがとれる場)など、現場に近い環境で学べる為。

<保育士科>

1年生 2名によるプレゼンテーション

****内容****

「教科書はいらない。教室は保育園、先生は子どもたち」

週一登園プログラム…週に1回、保育園に登園し実践的な学びを行う。さいたま市私立保育園協会と連携。

早期から現場を知ることにより即戦力人材を育成するプログラムとなっている。

****学生意見(学び)****

現場実習前はとても不安だったが、実際は楽しく学びも多い。懐いてくれる子どもたちとの触れ合いが印象的。

園の方針に沿えるか不安だったが、先生も子どもたちも優しく、学校の授業では学べない細かなことを学べた。

<調理師科>

2年生 2名によるプレゼンテーション

****内容****

「教科書はいらない」学び。全ての授業が演習・実習形式。学生の主体的・発想的な活動を重視している。

****学生意見(学び)****

卒業制作発表昨年度の最優秀チームの料理(コンセプト:インスタ映え)のメニュー「合鴨のローストとりボンパン」を委員に提供。

卒業制作を通じて得られる経験・技術は財産となっている。

仲間と問題発見・解決を繰り返し、これからもより良い料理を提供したい。

V. 2024 年度 自己点検・自己評価報告(前川・仁村)

1. ****組織目的・運営方針****

- 地域の高校・業界に根ざした実践的教育の構築。
- 全ての学生が望む未来を実現できる学校。
- 「産学連携教育」と「個別最適化」を推進。
 - 産学連携: 埼玉県に特化した施設・病院等との連携、業界リーダー候補の輩出。
 - 個別最適化: 学生の学習能力・生活環境・思考を把握するシステム活用、傾向に応じた必要なものを提供できる仕組みの構築。

2. ****事業報告(結果)****

- ****学生募集****

- 総定員 320 名に対し、入学者数 271 名。
- 夜間課程(保育士科夜間主コース、社会福祉士養成科)が定員割れ(保育 31/40 名、社会福祉士 23/40 名)。
- 介護福祉士科も 34 名/40 名と苦戦。うち 21 名が 1 年生留学生で、留学生比率が逆転。

- ****退学者数****

- 目標 3.9%以内に対し、実績 5.7%(28 名)。目標未達。

- ****進級率****
 - 実績 90.6%(222 名)。目標 93.1%にわずかに届かず。
- ****国家試験合格率****
 - 言語聴覚士科(昼間部): 67.6%(全国平均 85.3%)。大きな課題。5 カ年計画で改善中。
 - 社会福祉士養成科: 100%達成(全国平均 58.1%)。他学科への展開を目指す。
 - その他、介護福祉士科、製菓衛生師も受験。
- ****就職実績****
 - 内定率: 100%(就職希望者)。
 - 第一専門職への就職率: 96%。専門分野への就職率向上が課題。
 - 今後の目標: 早期(年内)内定 100%、専門分野への就職率 100%を目指す。

3. ****自己点検・自己評価項目別報告****(3 点満点評価)

- ****1. 教育理念・目的・育成人物像**** 自己評価 3 点
 - 3 つの建学の理念(実学教育、人間教育、国際教育)を全教職員が把握し運営。
 - 目指す人材像: 社会人基礎力、7 つの基本行動(挨拶、返事、言葉遣い、身だしなみ、整理整頓清掃、時間管理)、主体性、国家資格 100%合格。地域貢献できる人材育成。
- ****2. 学校運営**** 自己評価 3 点
 - 事業計画: 単年度目標、中期(3 年後)、長期(5 年後)計画を毎年見直し、運営会議で進捗確認。
 - 目標管理制度: 学校全体の目標に加え、チーム(学科・部署別)目標、個人目標を設定し、評価。
- ****3. 教育活動****
 - ****3-12. 教員組織の体制**** 自己評価 2 点
 - 課題: 専門分野の教員の確保と定着。昨年度 6 名の退職者。人材募集の難しさ。
- ****4. 教育成果**** 自己評価 3 点
 - 国家試験対策 学園の国家試験対策センターを活用し、全国のグループ校との比較で立ち位置を確認、客観的アドバイスを導入。
- ****5. 学生支援****
 - ****5-17. 中途退学者への対応**** 自己評価 2 点
 - 課題: 中途退学率が改善せず(2023 年度 5.5%、2024 年度 5.7% - 実数 28 名で横ばい)。
 - 内訳: 1 年生が大半。2 年生(卒業学年)の退学者も多い。
 - 理由: メンタル・フィジカルの不調による通学困難など。
 - 対策: カウンセラー配置、早期問題発見、家族との連携。休学制度はあるが復学は難しい現状。カリキュラム見直し等で対応開始。
- ****6. 教育環境**** 自己評価 3 点
 - 実践的学習環境: オレンジカフェ(認知症カフェ)の学内開催、販売実習など。
 - 安全管理: 避難訓練の実施(地域住民参加、大宮消防署への避難)。
- ****7. 学生募集と受け入れ****
 - トピックス: 保育士科の新コンセプト「教科書はいらない」導入により、学生数が V 字回復(過去 10 年で最多)。学科職員の徹底したマーケット調査とコンセプト策定・実行の成果。
 - 今後の展開: この成功事例を他の学科にも水平展開し、各学科の強みを際立たせた募集活動を推進。
- ****8. 財務**** 自己評価 3 点
 - 学生募集と中途退学防止が財務安定に不可欠。

- 5 カ年の中期・長期事業計画で収支確認。堅調な運営を維持。
- **9. 法令等の遵守** 自己評価 3 点
 - コンプライアンス委員会、個人情報保護委員会を設置し、法令遵守を推進。
 - 本日の学校関係者評価委員会もコンプライアンスの一環。
- **10. 社会貢献・地域貢献** 自己評価 3 点
 - **地域貢献**
 - 例大祭への参加(学生による地域活性化)。
 - **社会貢献**
 - 埼玉県委託事業「外国人介護職員応援セミナー」の実施。介護施設における外国人材対応支援。
 - **国際教育(海外研修の再開)**:
 - 調理師科: 韓国での研修(現地大学生との交流)。
 - 福祉保育分野: アメリカ・ロサンゼルス研修(東京福祉専門学校と合同、現地大学生との交流、施設見学)。
 - 今後の計画: 2025 年度はヨーロッパ方面への研修を計画中。
- **産学連携推進センターの取り組み**(石岡)
 - **同窓会の実施** 卒業生の離職防止、仕事へのモチベーション向上支援。
 - **生成 AI を活用した就職活動支援授業**:
 - 背景: 卒業後 1 年以内の離職率 3-5%。生成 AI の普及。
 - 目的: AI 活用で履歴書作成等の時間を効率化し、自己分析・業界研究の時間を増やすことでミスマッチを減らす。AI リテラシー教育。
 - 実践例: 自己 PR、志望動機の作成支援。
 - 重要視する点: AI はあくまでツール。最終的には自分の言葉で表現するリテラシー教育。

VI. 委員意見

(溝上委員)医療職(言語聴覚士)においては医師の指示下が絶対的である為「主体性」の難しさがある。

大学との違いとして、専門学校ならではの強み(実践経験)をよりアピールすべき。

学生へのサービス向上は教職員の負担増に繋がる。教職員の働きやすさ、やりがい向上のための配慮も重要。それが結果的に学生への良い学びにも繋がり、教職員の離職回避にもなる。

(菅間委員)AIには身体性がない。身体性を含めた豊かな経験、文化との出会いが専門性や人間性を育む。

専門学校は「教育のレリバンス(物事の関連性、学んだことと自分や社会との繋がり)」が見えやすい。

専門性やキャリアは「経験」によって形成される。今いる場所から一歩外に出る豊かな経験、文化との出会いが、利他の心や豊かな志を育む。

(小林委員)介護 DX は進むが、人でしかできない温かみは伸ばすべき。記録システムでの AI 活用は外国人職員支援にも有効なので利用している。

(鈴木委員)学校での AI 教育は避けて通れない。影で誤用するより教育内での活用が良い。

「教科書はいらない」というコンセプトとその実践は非常に優れており、よく考えられている。

(山本委員)AIは便利だが、基礎教育(「なぜそうなるか」の理解)と人間性(姿勢、マナー、倫理観)が最も重要。

AIはあくまでツールであり、頼り切ってはいけない。

保育士科の「週一登園」は早期に現場を体験できる非常に良い取り組み。

調理・製菓分野でも月 1 回でも導入を検討してはどうか。

(坪井委員)職人育成には基礎力と社会で生き抜く力が必要。実習は非常に役立つ。

(内田委員)教科書のない学び、現場での学びは学生にとって最も効果的。

VII. 閉会挨拶(結城)

近年の課題と取り組み

18歳人口の減少(昨年106万人→今年109万人と微増も5年後から急減予測、出生数は72万人)。

3年前、学生募集の困難から教職員・学生の疲弊を経験。

そこから「教育の本質は募集活動ではない」と気づき、「教育を良くする」ことに立ち返った。

結果、学科長やスタッフ、学生が元気になり、学生募集も好転する好循環が生まれた。

今後も委員会にて意見をいただきながら、共に良い人材を育成していきたい。